



ふじのくにから 世界へ!

静岡県には世界に誇りうる自然、文化、産業などの資産が豊富にある。その魅力あふれる資産を最大限に活かして富国有徳の理想郷“ふじのくに”を目指す静岡県の「今」を紹介する。

静岡の「茶」と「食」が目指す 輸出拡大に向けたグローバル展開

静岡県の茶と食が世界へ向けて大きく羽ばたこうとしている。今年行われたミラノ国際博覧会（ミラノ万博）においても、日本館での静岡県のパフォーマンスが大きな話題となり、「茶の都」と「食の都」を印象づける好機となった。

今、海外では健康や和食に対する関心が高まり、緑茶の需要が伸びている。そこで、県では、今年4月から専任スタッフを配置し、静岡茶の輸出拡大に向けた支援を開始した。

また、県と世界緑茶協会、県茶業会議所等の8機関で構成する「輸出拡大支援チーム」は、生産者と流通業者とのマッチング支援を、EUとアメリカに設置したサポートデスクは、現地バイヤーの招聘や商談の支援を行っている。

さらに、海外ニーズにあった茶の生産や、海外での販売戦略をテーマとしたセミナーを開催するほか、輸出先の残留農薬基準に対応した茶の栽培方法を確立し、海外展開を後押しする。

併せて、空の玄関口である富士山静岡空港に程近い島田市内に、茶に関する情報を集めた「茶の都」の拠点施設の整備を計画しており、世界に向けた情報発信力を強化していく。

みかん、いちご、わさびなど本県が誇る農林水産物の海外販路開拓のため、平成16年度から生産者団体や企業で構成する「しずおか農林水産物海外市場開拓研究会」を組織し、輸出の取組の輪を広げている。会員数は年々増加し、平成27年9月時点では145の事業・団体を数える。

特に、高い経済成長を続けるアジア地域（香港、マカオ、シンガポール、台湾、中国）を重点市場と位置づけ、バイヤーの招聘や生産者による現地スーパーでのプロモーションなど、販売先の状況に応じた様々な支援を行っている。

また、「ふじのくに“和の食”国際アカデミー」を開催し、アジア地域のすし職人を対象に県内のすし職人による実演講義を実施するなど、国境を

越えた料理人の交流や県産食材と食文化の情報発信を行っている。

県では、さらなる輸出拡大に向け、富士山静岡空港の物流拠点としての活用も視野に入れながら、有望商品の発掘やテスト輸出など、より具体的な支援に努めていく構えだ。



ミラノ万博において、“ふじのくに食の都仕事人”の一木さんによる県産食材のPRステージ。巻き寿司用のシャリを、来場者がうちわで願っている。



平成27年10月10日～14日にドイツ（ケルン）で開催された、お茶の海外商談会「ANUGA2015」における静岡ブース。

